



## 子どもたちが主体的に取り組んだ体育祭

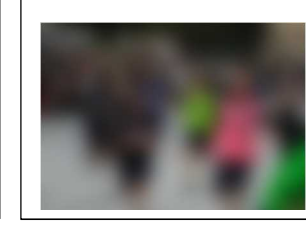


5/19(日)曇り空の暑すぎない最高のコンディションの中、第43回体育祭が開催されました。多くの保護者の皆様から温かい声援や拍手をいただいたおかげで、子どもたちも全力で取り組んでいたのではないかと思います。今年も「楽しむところは思いっきり楽しみ、逆に集団を意識して整列したり、人の話を聴く場面ではしっかりと聴く」という「動」と「静」のメリハリのある体育祭でした。さらに、今年はこれまで教員が指示や指導していた練習の一部を3年生のブロック長や実行委員に委ね、生徒たちが計画を立て、取り組みました。そして、練習後には必ず振り返りをして次の練習に臨みました。そうしたPDCA(計画-実行-評価-改善)サイクルを重ねながら、課題を明確にして改善策を考え、取り組む姿勢は正に“主体的に学習に取り組む態度”と言えます。閉会式でも述べましたが、もしかしたら、保護者の皆様にはそこまでのプロセスがあって、当日を迎えていることは実感できなかったかもしれません。しかし、担当する教員が丁寧に指導・支援した成果だと、ご理解いただければ幸いです。生徒たちには体育祭を通して学んだ経験を今後の学校生活でも活かしてくれたらと願っています。次のとおり実行委員長・ブロック長の皆さんが書いてくれた「体育祭を終えて」の一部を紹介いたします。

- 実行委員長 「私はある先生から『頑張ったら、頑張った人しか見えない景色が見える』という話を聞きました。最後の体育祭に向けて声を掛け合った仲間との円陣、練習や本番で何度もした仲間との握手、ゴールに向かって一生懸命取り組む仲間の姿は正に頑張った人しか見られない景色だと思いました。」
- 31組 青ブロック 「2年生が私たちの姿を見て『団長やりたい!』と伝えてくれた時はとてもやりがいを感じました。最後の体育祭こそ、正に『勝ちよりも価値ある仲間』を実感できた瞬間でした。」
- 32組 桃ブロック 「仲間に自分の伝えたいことを伝えられない歯がゆさやまとめることの難しさを同様に感じている団長たちと、より良い体育祭にするために考えて行動した時間は、本当にかげがえのないものになりました。」
- 33組 緑ブロック 「クラス・学年・全校との関わりができ、実行委員長や団長たちとの絆や信頼が深まり、たくさんのものを得られた体育祭でした。この2週間は人生で一番充実した2週間でした。」
- 34組 赤ブロック 「この学年だったからこそ、やりきることができ、悔いのない体育祭になりました。こんな自分に最後までついてきてくれた赤ブロックの仲間感謝の気持ちでいっぱいです。」
- 35組 橙ブロック 「団長たちや実行委員長と『こういう所が足りないから、こういう練習をしよう』と自分たちでいろいろ考えたこともあり、体育祭が終わった時の達成感はとてもすごいものでした。」
- 36組 黄ブロック 「1, 2年生が終わった時に『楽しかった!』と言ってくれて本当にうれしかったです。団長としては、『勝ちよりも全力で楽しんでやるのが一番!』と思っていたのでホッとしました。」

また、保護者の皆様の参観に際して、けやきの会本部役員やサポーターの皆様が事前に十分な準備と、当日も朝早くから献身的にご協力いただいたおかげで、大きなトラブルもなく、無事終

えることができました。改めて心より感謝申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。



## 委員の皆様から貴重なお話をいただきました！

昨年度から本校は学校運営協議会制度を取り入れた「コミュニティ・スクール」となりました。今年度は2年目ということもあり、5/22(水)に開催された第1回運営協議会で全校生徒並びに全教職員に対してお話をさせていただく機会を設け、交流を図りました。まず始めに私の方から「あいだみつお」さんの『花を支える枝 枝を支える幹 幹を支える根 根はみえねんだなあ』という言葉引用して「皆さんは体育祭で素晴らしい花を咲かせてくれました。それはブロック長や実行委員をはじめ、係の生徒がそれぞれの役割を全うしてくれたことはもちろんですが、先生方や保護者の皆様が支えてくれたおかげです。しかし、実はそれだけではなく、皆さんが安心・安全な学校生活を送ることができるように、日頃から地域の方々が根や土となり、見えないところで皆さんを支えてくれているからです。」といった主旨の話をしました。そして、委員の皆様からはご自身がなされている仕事内容や本校生徒に向けて素敵なメッセージをいただきました。例えば、「頑張れないときは、無理して頑張る必要はない。夢はいつかは見つかるので、焦らないで欲しい。」「災害時には地域の力になって欲しい。」「皆さんの元気な笑顔が地域の魅力につながる。」「地域のより良い環境づくりの担い手になって欲しい。」などです。その後、生徒からは「学校運営協議会委員の仕事を具体的に教えて欲しい。」「私たちにできることは？」といった前向きな質問がありました。最後に生徒会本部副会長から「皆様の話を聞いて、毎日の生活の中で自分自身が生き生きと過ごせる居場所を見つけていくことが大切だと思いました。」といった内容のお礼の言葉がありました。改めて、今年度の委員の皆様を次のとおりご紹介いたします。なお、学校運営協議会の予定や協議内容については、学校ホームページでも掲載していることを申し添えます。



| 氏名     | 所属                    | 氏名     | 所属            |
|--------|-----------------------|--------|---------------|
| 大塚 真奈  | 湘南大庭市民センター長           | 葉山 太一  | 本校元学校評議員      |
| 國丸 明子  | 六会地区民生委員・児童委員         | 田中 和恵  | 本校けやきの会元代表    |
| 水村 なつみ | 本校けやきの会元代表            | 天利 智子  | 大庭地区社会福祉協議会理事 |
| 松澤 直子  | 藤沢西高等学校長              | 瀬戸 宣武  | 滝の沢小学校長       |
| 人見 甲子郎 | 森の仔じゆうがっこう事務局長        | 一瀬 今日子 | 石川小学校長        |
| 持川 和道  | コミュニティソーシャルワーカー (CSW) | 笹原 信吾  | 滝の沢中学校長       |
| 富樫 里美  | 介護施設ぐるんとびー職員          | 武田 三枝  | 滝の沢中学校教頭      |

## 「子は宝 親の背中が道しるべ」

先日、上記のような標語が掲示されている道を車で通りました。信号待ちしている時に何気なく見たものですが、「うまく考えた標語だなあ」と感心して記憶に残りました。同時にこの標語を見た時、4月下旬にお亡くなりになった詩画家の星野富弘さんのことを思い出しました。子どもたちにも体育祭結団式の時に話しましたが、星野さんは念願の教職に就いたものの、事故により手足の自由を失いました。しかし、口に筆をくわえ、創作活動に取り組み、素晴らしい作品を生み出しました。そうした自分の人生を精一杯生き抜いた姿勢は正に多くの人を勇気づけ、励ましてくれたのではないのでしょうか。そして、星野さんの詩で共感できるのは、前向きな感情だけではなく、苦しみや悲しみなどのマイナスな感情や気持ちを素直に表現している点です。言い換えれば、全ての思いを言葉にしている人間らしさ、揺れ動きながらも懸命に生きようとする生き様が「多くの人を道しるべ」になったのではないかと思います。作品の中に次のような詩があります。

幸せという花があるとすれば その花の蕾のようなものだろうか  
辛いという字がある もう少しで幸せになれるような気がする



本校でも生徒たちが教員の姿を見て「道しるべ」となれるよう努めていきたいと思っております。